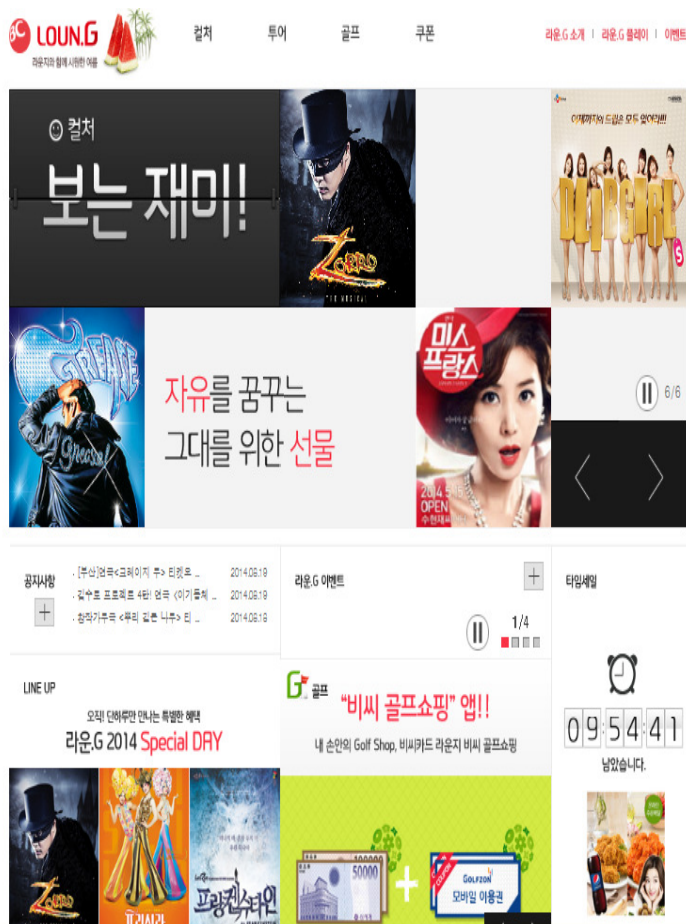


BCカード統合Loun.Gサイト CMS連携構築プロジェクト

各ラウンジサイトの統合によるシナジー効果とアクセシビリティの向上、CMS導入による効率的な運用体制を実現



[写真：一新したBCカードのLoun.Gサイト]

金融とカード業界の2013年の最もホットな話題といえば、Webアクセシビリティの確保の義務化。それに伴い、国内でも政府・自治体・企業全般でのWebサイトのアクセシビリティ向上に積極的に取り組んでいる。

今日は、BCカード社ならではの差別化されたメンバー・シップサービスである、「統合Loun.Gサイト(<http://loung.bccard.com/>)」を通じて、CMSとの連携構築プロジェクトを通じて、正確性と信頼性が求められる金融機関がWebサイトに対して最優先配慮すべきことと、サイトの運用担当者が抱える管理上の悩みや解決策について聞いて見た。

5つのメンバー・シップサービスを統合し、運用の効率アップと差別化されたサービスを提供

今回のプロジェクトは、最近、カード各社の「オープンWeb¹」環境づくりの一環として、ゴルフ、ショッピング、ダイニング、カルチャー、ツアーなどの個別ラウンジを一つにまとめた「統合Loun.Gサイト」のCMSとの連携構築を通じて、Webアクセシビリティはもちろんサイト運用の効率アップにも着目して進めた。

BCカードの今回のプロジェクトの場合、既にCMSを導入して使っていたにも関わらず、より一層CMSの機能を強化し、コンテンツの一元管理による業務の効率性をアップ、現場担当者の使いやすさを強化するなど、開発関連業務に影響がない範囲内での最大限の効率アップを中心に行われた。

【(株) I-ON Communications 会社紹介】

1999年7月設立の(株) I-ON Communicationsは韓国のコンテンツ管理システム(CMS)およびデジタル資産管理(DAM)分野の代表企業として、エンタープライズコンテンツ管理(ECM)を含め、Webコンテンツ管理(WCM)全般にわたる多様なソリューションと製品を提供しています。製品の技術力と優秀な品質、顧客に対する信頼性に基づいて日本ソフトウェア市場で様々な企業様から支持されています。

海外市場で認められたグローバル標準の技術力で2014年も世界中のお客様にコンテンツ管理ソリューションを披露していきます。

¹: マイクロソフトのOSとIEに依存していたユーザー環境から脱出し、OSやデバイスに縛られず利用できるWebサービスのこと。



担当者 INTERVIEW



BCカード 課長 ゴ・セヨン 氏

Q. 今回のプロジェクトの背景は？

今回のリニューアルでは、各ラウンジサイトの統合でビジネスのシナジー効果を生み出すと共にBC Loun.Gを利用するユーザにとって使いやすいホームページを目指し、日々の更新においてWebアクセシビリティの確保に力を入れた。以前は生活サービスサイトであるラウンジとツアーラウンジ、ゴルフラウンジなどがそれぞれ運用されたため、管理が複雑で大変さを感じていた。

弊社としては、提供する様々なサービスを一つにまとめ、お客様に差別化を図ると共にサイトの運用においても、CMS連携構築で利用者の利便性をさらに高め、業務の効率性アップがプロジェクトの主な内容であった。

Q. プロジェクト実行中に、最も重視した点は。

BC Loun.Gを訪れる顧客のための最適な環境づくりと、サイト運用管理者のための使い勝手の向上である。IEだけではなく、ChromeやFirefox、Operaなどの様々なクロスブラウザにも対応できるように構築し、さらには分離されていたラウンジを統合することで、それぞれのラウンジに設置する必要があったActiveXの問題も解消しようとした。

サイト運用や管理の面では、既存のCMSでは管理してなかったライブラリやリソース（CSS,JS,IMG）などのデータをCMSで管理するように連携構築し、開発ページでの修正が多いコンテンツに対してはCMSで管理できるようにすることで、本番サイトの運用や管理とプログラミング的な面を分離することに比重を置いた。

なお、最近その重要性が高まっているマルチデバイス対応とWebアクセシビリティの確保も重要な課題となっていた。

Q. I-ONのソリューションを選んだ理由は？

今回のプロジェクトの主な目的は、統合ラウンジサイトへのCMS連動と使い勝手の向上であり、既にICSを使っていたので、既存で活用していたソリューションを使った連動作業を進めた。

I-ON Communications（以下、I-ON）は韓国CMSソリューションNo.1の実績を保有していて、様々な産業分野での構築経験を重ねてきたことが一番の強みである。特に、迅速なコンテンツの登録・修正・配信可能で、属人化している作業を最小限に抑えることで運用とプログラミング的な面が分離できるということに着目し、ICSとIDSを導入し効率的な運用体制を目指した。

Q. ソリューション導入後、最も満足したことは。

既存のラウンジサイトの場合、開発コードが適用されたページのコンテンツに修正が必要な場合には、IT部門で修正を入れる必要があったので、かなりの時間がかかった。

公演などのサービスが急に変更になったりすると、頻繁に変更作業を必要とした。たとえば、公演「オペラ座の怪人」のキャストが突然変更になった場合、このキャストの変更をサイトに反映するためには、IT部門に作業依頼をし、各ページごとにセキュリティのチェックや標準化の検収など、一連のワークフローを踏まなければならない。このプロセスを経てやっと修正が反映されるまで数日かかることもしばしばあった。

しかし、CMSの適用後には、公演情報などの修正もCMSで簡単に変更・反映されるので、業務の効率が大幅アップした。なお、Webアクセシビリティの確保で、誰もが平等にWebサイトを利用できるアクセシブルなWebサイトの実現につながった。

今回、プロジェクトを共に進めながら、I-ONのコンサルタントから製品教育があった。CMSは運用をリードするソリューションなので、運用関連の問題が起こることもあると思うが、I-ONの場合、専門コンサルタントがソリューションの導入だけでなく、関連で発生する様々な問題についても持続的にとてもよく対応してくれたので、他のソリューションとは違うと認識するようになり、今後のプロジェクトの続行に対しても信頼できるパートナーとして、良い関係を築いていけると信じるようになった。今後も良い関係を続けていきたい。

Q. 今後の計画は？

今後は他のサイトにも「ICS」適用を検討している。Loun.Gサイトのリニューアル成功の経験を基にBCカードが管理している各サイトに対してもリニューアル作業や標準コーディングに変える作業を考えているので、今のところ、年末まで順次に準備していくことを検討している。

今回のプロジェクトでは、I-ONのICS5とIDS5を導入することで、ラウンジサイトのコンテンツ性の高いページを開発。それに加え、バナーやポップアップなどの汎用性管理要素をICSを使って構築し、CMSを活用した管理機能を追加した。特に、マルチデバイス対応に備えてエディターツールの使用を最小限にできたことや、データ管理体制の基盤のもとでのメタフィールドの構築など、運用者や利用者の利便性の向上を重視して製品の設計と構築が行われた。

また、従来CMSで管理していなかったライブラリやリソース（CSS,JS,IMG等）などのデータをすべてCMSで管理するように構築したので、運用者のサイト管理がより楽になった。なお、開発ページでの修正が頻繁に行われていたコンテンツなどを管理しやすくするため、CMSで管理するようにIT管理部門と協力しながらプロジェクトを進めた。





I-ON プロジェクトコンサル&プレセールス担当

ジョン・ヘジョン 氏



今回のプロジェクトの重点は、“現在の構成管理の役割上でのCMS本来の役割を強化しながら、複雑なプロセスをなくすと共に、コンテンツを簡単に変更・登録して業務の効率を最大化すること”でした。

特に、お客様の複雑な業務プロセスを最小限に抑え、担当者が迅速かつ簡単にコンテンツを変更・配信できるように、お客様

とのコミュニケーションを重視しながら開発と運用チームと機能拡張について合意点を見つけ出そうとしました。なお、CMSを使ってWebアクセシビリティに適合したWebサイト作りを目指しました。

テンプレートの場合、現場で特別管理が求められる諸要素を独立したファイルに分離し、共通ライブラリで作業できるように構成。頻繁に修正が行われるコンテンツ群についてはアクションフィールドを生成して、簡単に変更できるよう設計しました。このような作業を通じてお客様のLoun.Gサイトの業務プロセスを改善しました。

お客様のBCカード社は、既にICSを使っていたましたが、2年ごとにサイト管理者が変わるなど、ICSの特長や強みを十分に生かすことができませんでした。今回のプロジェクトを機に、Webサイトの管理

がより簡単にできるようになりました。

なお、弊社では、お客様にはICSの概念から使い方まで習得できるように、現場で役立つ製品の研修を行いました。きっと、ソリューションの活用能力がアップされたに違いありません。

これからもICSの導入や設計にとどまらず、常にお客様の目線に立ってサポートできるように頑張ります。今後とも宜しくお願いします。